

課  
観光  
商工  
企画  
企業

## 中山間地域の食と観光を考える 地域づくり連携サミットin庄原



講演する東谷さん

産業振興・農工商連携・観光交流などの視点から「地域の熱い取り組み事例」を広く発信し、地域の活性化を図ることを目的に11月25日・26日の2日間、「地域づくり連携サミットin庄原」が開催されました。

初日はまず基調講演として、林業中心の過疎の山村で「馬路村ブランド」をプロデュースした東谷望史さんが、地域資源である柚子を活用し、年間30億円(平成17年)を超える売上げにつなげた戦略を、体験談を交え熱く語りました。

続いて専門ミニ講義では、県立広島大学の武藤徳男教授と愛媛大学の井口梓准教授が、地域資源を活用するための具体例を紹介。またリレートークセッションでは、各地域で先進的に取

り組んでいる7人が実践事例を発表し、来場した約600人は熱心に聞き入っていました。

翌日は、食と体験のおもてなしツアーが実施され19人が参加。実際に東城町の町並みを散策したり、造り酒屋で地酒を試飲したりしました。

この日は寒い一日となりましたが、造り酒屋から甘酒が振舞われ、参加者は古い町並みと温かいもてなしにとっても感動していました。



食と体験のおもてなしツアー

城所  
西支

## 西城地域発のツーリズムを目指して 「地域の強みを生かした交流プログラムのイロハ」開催



プログラム作成に取り組む参加者

農林業を体験する「グリーンツーリズム」など、「体験」「学習」「交流」を重視し、地域の魅力や地域の人々が再発見・再発掘し、地域から発信する「ニューツーリズム」が注目されています。

この研修は、地域が幸せになる、地域住民の絆を強めるなどのツーリズム事業の企画立案能力や、実践力を高めることを目的に企画し、全5回を開催。自治振興区や自治会、事業所、任意団体など、町内外から13組35人が受講しました。

地域にある資源をよく知り、自分たちの地域をどう変えたいのか、長続きする魅力的なツーリズムにするにはどうしたら良いか、などを学びました。

最終日には、身近にある資源を生かした交流プログラムを10組が発表。

受講者からは「発表したプログラムを地域に持ち帰り、さらに洗練させて来年度から実現させていきたい」との声が聞かれました。

西城地域では、昨年10月から11月にかけて、人間科学研究所の所長志賀誠治さんを講師に招き、「地域の強みを生かした交流プログラムづくりのイロハ」と題しツーリズム研修を開催しました。

「ツーリズム」とは、主に農山村地域で自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことを言います。近年は、自然の中で休日を過ごす



水道課

非常時の飲料水確保に活躍  
給水車(加圧式)を配備

市の水道事業では、庄原ゲリラ豪雨や寒波による凍結で水道管が破損するなどにより、ライフラインである水道が断水し、飲料水の確保が困難になる事態が発生しています。

市はこうした非常時に備えるため、迅速に大量の飲料水を運搬できる給水車を1台配備しました。  
車両は、積雪時の対応にも備えて四輪駆動の2トンを使用し、容量1,500リットルのステンレス製タンクや加圧ポンプを搭載しています。一度に2リットルのペットボトルで約750本分の飲料水を運搬でき、ポンプを使用して受水槽などへの給水もできます。



配備された給水車

大規模な災害発生時などには、より迅速に飲料水の供給を図ることが市民の安全安心を確保する上で最も重要です。  
今後は、配備した給水車を非常時の給水活動に活用していきます。

業員  
農委

女性農業者の地位向上を目指して  
女性農業者&女性農業委員懇談会

「庄原市女性農業者&女性農業委員懇談会」を11月24日、庄原市ふれあいセンターで開催し、女性農業者20人と女性農業委員7人が参加しました。

この会は、市内の女性農業者の話し合いや、交流する場が少なくなっている現状を変えたいと女性農業委員が企画。2回目となる今回は、女性農業者の地位向上に向けた学習を中心に行われました。

はじめに、広島県立大学生命環境学部准教授の村田和賀代さんによる



和やかな雰囲気で見学交換

「地域資源の利用と課題」と題した講演が行われ、その後、女性農業者の現状と課題をテーマに懇談を深めました。

参加者からは「興味深い話しを分かりやすく聞くことができた。次回も参加し勉強していきたい」との声が聞かれました。  
農業委員の道下和子さんは「女性農業委員が増えたので活動の幅も広がっていきたく」と話していました。

総務課

自身の体験から人権を語る  
いっこく堂の人権トークショー

庄原市民会館で12月2日、庄原市人権講演会「いっこく堂の人権トークショー」を開催し、約500人が来場しました。

テレビなどでおなじみの腹話術師いっこく堂さんが、日常の何気ない生活

にひそむ人権問題について、全6編からなる映像を一緒に見ながら語りました。  
いっこく堂さんは「中学生時代にちよつとした誤解で友だちから無視され、恥ずかしさから誰にも相談できなかったが、それでもいじめを乗り越えることができたのは、友だちや家族の支えがあったからこそ」と自身の経験をもとに静かに語りかけました。

講演後のアンケートでは「歌も交えてとても心が温まった」「楽しく見させてもらいながら、身近な人権の話が盛り込まれてよかった」など、多くの意見が寄せられました。



冒頭には軽妙な腹話術トーク

治課  
自振興

地域をじっくりと見つめ直す  
地域づくり実践研修会



地域活動を話し合う参加者

る。毎年こなす行事についても、地域のための機能や役割を考えていく必要がある」と指摘。

その後グループごとに分かれ、自分たちが暮らす地域の5年前と5年後の人口、産業、暮らしの変化について予測し、地域にとって必要な事業、減らす事業などを具体的に書き出して整理していきました。  
参加者は「自治振興区活動を見つめ直す良い機会になった」「この研修を来年も続けてもらいたい」と話していました。

工課  
商観

地域力の維持・強化を目指す  
庄原市地域おこし協力隊員第1号が決定



滝口季彦市長から委嘱状を手渡される檀上さん

市は12月14日、庄原市地域おこし協力隊員に檀上理恵さん(大阪府堺市)を任命しました。

これは、平成25年3月の中国横断自動車道尾道松江線開通に合わせて、道の駅(高野観光交流ターミナル)の整備を中心とした未来創造支援事業(①道の駅整備、②高野の逸品100プロジェクト、③着地型観光推進、④雪資源活用)に取り組んでいる「高野地域」をモデル地区と位置付け、市内で最初の地域おこし協力隊員として募

集していました。

任期は1年(最長3年まで更新)で、活動内容は①高野観光交流ターミナル(道の駅)開業支援②観光開発支援③特産品開発・販売支援④その他地域おこし活動への参加、または参画などです。活動状況は随時広報紙、ホームページなどでお知らせしていきます。

庄原の懐かしい風景とあたたかさ魅せられたという檀上さんは「高野の人たちと都市部の人たちは今、互いを必要とし合っていると感じる。活動にかかわらせていただくことで、最終的にそれぞれの皆さんのより豊かな生活につながっていければうれしい」と意気込みを語っています。

地域おこし協力隊員とは

人口減少や高齢化などの進行が著しい地方で、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的に、平成21年度に総務省が始めた事業です。

県内では三次市、神石高原町について3番目の取り組みです。

総領のふるさとセンター田総で11月26日・27日の2日間、講師にIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表の川北秀人さんを招き、「地域づくり実践研修会」を開催しました。  
はじめに、市が実施する女性リーダー育成事業を紹介した後、口和自治振興区女性部と庄原自治振興区がそれぞれの取り組みを発表しました。川北さんは「今は当たり前でも、5年経つと周囲も自分も5歳ずつ年を取



講師の川北秀人さん